

令和4年度 前期学校評価 要旨

南アルプス市立甲西中学校

□回答方式を変更（紙面回答→Google Forms）したことにより

○とくに担任の回収作業が軽減され、集計も比較的短時間に行うことができた。

ただし、保護者の内46名（17%）は、紙面による回答を選択した。

▼保護者の中で二重回答がみられ、回答内容も大幅に異なっていた。[22項目中9項目]

※回答内容の再現性に問題ありか…

▽生徒の補足質問(同内容)に対する記述回答数が大幅に減少した。[R3後166 → R4前95]

□教職員自己評価の考察に関わって

○全25項目が、3.1以上のA判定となり、肯定的な回答も80%を上回る結果。

○**1**「学校教育目標・学校経営方針に基づいた学校運営」については、昨年前後期比で向上。

▼3.5未満の項目（※A判定ではあるが、やや低めであると判断）が多い。[9項目]

▼昨年同期比で評価の低下した項目が多い。[4項目↑/9項目↓]

I 学校経営・組織・安全管理

2「教職員間の相互理解と協働的な教育活動」…3.4とやや低い

■朝の打合せ削減の継続 ■校務支援システムの変更に伴う伝達手段の複雑化 など

□定期的な終礼の実施 □日常の校務における報告・連絡・相談体制の再確認

□新校務支援システムへの早期の適応

5「個人情報適切な管理・保護」（3.5と著しく低い数値ではないが…）

■油断していると思われる状況について指摘あり。

□責任をもった管理と保護について全職員で確認 □収納場所の確保と改善

7「ライフ・ワーク・バランスと業務改善」…3.1同期比0.2↓・昨年後期比0.4↓

■新校務支援システム・グループウェアへの不適応（複雑な操作の必要性）→多忙感

■勤務時間（とくに退勤時刻）・年次休暇等の取得については、意識の高まりは認められるが、業務内容自体は必ずしも減少していない（コロナ禍への対応も含め新たな課題や業務も生じてきている）。

□職場内だけでの改善には限界もある。今後、部活動の地域移行についても検討が進められ、状況は大きく変化していくものと予想されるが、県教委・市教委ならびに地域との連携を図るなかで、少しでも業務の改善や多忙化の解消につなげていきたい。

II 教育課程・学習指導

4項目中3項目が肯定的回答率100%、1項目が96%。

11「GIGAスクール構想実現に向けた端末の積極的利用」…3.4ポイントとやや低い

■多くは日常の授業の中で端末を活用しているが、機器の取扱いを苦手としたり、活用のための準備に時間を割けない教職員も一定数いる。

□今後も予断を許さないコロナ禍において、オンラインによる授業等、一層の柔軟性をもって対応できるように準備をしておきたい。

III 生徒指導・教育相談・特別支援教育

7項目中5項目が肯定的回答率100%、2項目が96%。

12「報告・連絡・相談体制の確立と組織的な対応」…3.5昨年比で0.2低下

16「師弟同行の実践と生徒の模範・理解者・支援者」・**17**「不登校傾向の生徒支援」・**18**「特別支援教育についての共通理解」…3.4ポイントとやや低い

□生徒指導上の問題について、SNSの利用等に関わる事項は、非常に相関性の高い傾向が認められる。記述回答の指摘にもあるように、信用失墜につながることはないよう教職員自らもスマホ等の利用機会・エリアを見直しておく必要がある。

□不登校傾向にある生徒は、昨年度に比べ数的にはやや減少したが、1学期後半にかけての増加傾向にある。各学級担任を中心に丁寧に対応しているが、保健室における支援やSC

による助言、また外部機関への支援要請や必要に応じてはフリースクール等への通所も選択肢に含め、個に応じた柔軟性のある対応を職員全体で共通理解しておく。

- 特別支援教育に関わっては、特別支援学級のみならず、通常学級内にも様々な特性を抱えた生徒が複数みられる。学年職員や支援担当職員だけでは困難な場面もみられる為、状況に応じては全校体制で関わられるように調整を図る。また、校内支援委員会を通じて得られた方策や共通理解をもとに、全職員一丸となりチームとしての取り組みを充実させていく。

IV 特別活動

19 「学校行事や生徒会活動等の取り組み」…3.6 同期比で 0.1 向上

20 「部活動への取り組み」…3.5 同期比で 0.2 低下

21 「合唱活動の推進」…3.2 同期比で 0.2 低下

■合唱自体が感染リスクの高い活動でもあり、依然として数々の制限を伴い限定された範囲に絞られている。「今年こそは」との期待を挫かれた状況がみられる。

□やむを得ないところではあるが、今後も現況を把握するなかで、「何が可能なのか」・「どうしたら可能となるのか」を熟慮し、工夫して取り組んでいかざるを得ない。

22 「あいさつができる生徒の育成」…3.3 同期比で 0.2 低下

■記述回答による指摘にもあるが、日常の学校生活において、感覚的にもあいさつの状況に低下が感じられる。生徒アンケートの補足質問から、生徒自らも意識している点であることがわかる。

□コロナ禍の継続している現状ではあるが、生徒会や各学年の取り組みを通じて望ましいあいさつ習慣づくりを推進していく。

V 保護者・地域連携

2項目とも肯定的回答率 100%。

23 「保護者との相互理解と連携」…3.6 同期比で 0.1 向上

24 「情報提供」…3.7

VI その他

25 「小中一貫教育の推進」…3.3 と低めの評価

□来年度の小中一貫校設立に向け、昨年度後半より少しずつ計画が進んできてはいるものの、新型コロナ感染防止対策の為、甲西地区の全小中学校教職員が参集する機会も設定できず、予期せぬ防犯上の都合により専門部会が開催できなかったこともあり、遅延感は否めない。今後の挽回を図りたい。

□前期生徒・保護者アンケートのまとめに関わって

生徒アンケート…携帯電話関連項目以外の23項目中21項目はAの判定、同期比で上昇した項目が4項目、低下した項目も4項目みられた。4 「自宅での読書状況」の項目は 2.4 ポイントで C、5 「テレビやスマホなどのけじめ」の項目は 2.9 ポイントで B の判定であった。

保護者アンケート…未回答の項目も複数。携帯電話関連項目以外の21項目中15項目はAの判定だが、B判定が3項目、C判定が2項目、D判定が1項目みられた。14 「授業の工夫」・15 「分からない生徒への配慮」は、ともに同期比で 0.2 低下している。コロナ禍の継続により、学校に足を運ぶ機会が著しく減少していることから、生徒の学校生活や学習状況について把握しがたくなっている現状も想定されるが、少なくとも学校の本質ともいえる学習指導に関わっては、信頼を寄せられるように取り組んでいく必要がある。

- 項目全般にわたり、生徒の回答に比べ保護者の回答の方が、低めの評価となる傾向が見てとれる。
- 同期比で、携帯電話の所有率は上昇し、逆にルールの作成率は低下している。※2年生を除く
- 携帯電話の所有とルールの作成に関しては、本来ならば生徒と保護者の回答は一致すべきところであるが、とくにルールの作成率については比較的大きな差異がみられる。保護者はルールを決めているつもりでありながらも、生徒はルールに対して意識の薄いことが推測される。